

彫刻ワーキング部会の検討状況

令和7年3月



1. 令和6年度の彫刻WG部会の検討スケジュール

- 令和6年度の彫刻WG部会における主な検討内容は、下記のとおりである。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
石彫刻工程 (概要)	下絵・石膏原型（大龍柱、親柱上の獅子など）												
	加工・彫刻												
木彫刻工程 (概要)	彫刻（今年度中にほぼ引き渡し終了）												
			●6/11：唐破風懸魚、入母屋破風懸魚引き渡し	●7/22：2階 御差床 羽目板引き渡し	●8/29：2階 須弥壇（高欄含む）のうち須弥壇引き渡し	●9/17：2階 御差床 龍柱、内法額木引き渡し	●9/30：2階 須弥壇（高欄含む）のうち高欄引き渡し	●11/8：透欄間引き渡し	●11/14：金龍引き渡し	●1/24：唐破風妻飾、牡丹獅子唐草、向拝奥の獅子引き渡し	●1/29：内部手摺一部、外部窓手摺引き渡し		
彫刻WG部会				⑩7/16							⑪2/19		
彫刻WG部会 に係る 調査・監修等	4/22・23 監修 唐破風妻飾	5/16監修 牡丹獅子唐 草ほか木彫 刻 5/28監修 大龍柱石膏 原型、 向拝奥獅子、 羽目石、 内法額木	6/5監修 石彫刻全般 6/11 監修 内法額木、 懸魚 6/28監修 内法額木	7/17監修 唐破風妻飾	8/7監修 親柱獅子粘 土塑像 8/20監修 内法額木、 御差床龍柱 8/22監修 親柱獅子粘 土塑像	9/4 監修 内法額木 9/13監修 御差床龍柱、 須弥壇高欄 の擬宝珠等 9/27監修 牡丹獅子唐 草	10/9・10 監修 唐破風妻飾 10/16監修 透欄間、 金龍	11/6監修 透欄間、金 龍、親柱獅 子台座 11/13監修 親柱獅子 11/19監修 御差床龍柱、 親柱獅子、 石彫刻全般 11/20監修 唐破風妻飾	12/10監修 金龍、向拝 奥の獅子 12/18監修 金龍、向拝 奥の獅子 12/26監修 牡丹獅子唐 草	1/9監修 唐破風妻飾 1/22監修 向拝奥の獅 子 1/24監修 唐破風妻飾 ・向拝奥獅 子の配置			監修の み記載

開催日	会議名等	主な検討内容
7/16	第10回WG部会	・木彫刻の製作方針等の確認、木彫刻の色の申し送り内容の確認／石彫刻の製作方針等について確認／製作物の記録保存（完成した彫刻の3Dスキャン）について確認
2/18	第11回WG部会	・製作物の進捗の確認／石材の軽微な補修方法について／製作に係る記録等の保存・活用について
適宜	その他調整・監修	・作業進捗にあわせて適宜、調査・調整・監修を実施

2. 石彫刻の進捗状況①（概要）

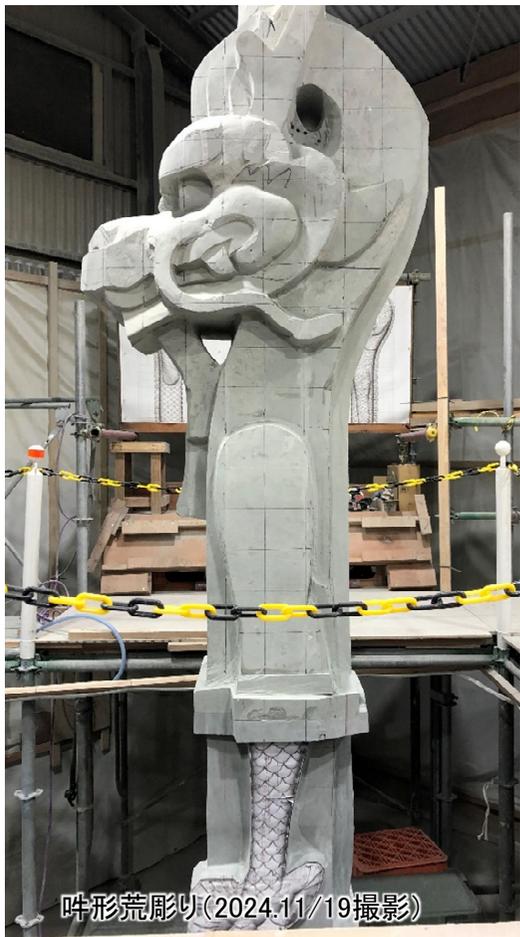
- 石彫刻および石工事の進捗状況は、下表のとおりである。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	令和5年9月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
	（西之廊下用/南之廊下用）	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	材料調達済
3	大龍柱	令和8年4月頃	ねじれの表現など	製作中
4	大龍柱の台石	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	荒加工済
5	小龍柱	令和7年9月頃	腹板の数、 ねじれの表現など	製作中
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	令和7年9月頃	獅子の顔及び体の向き、 獅子の造形など	製作中
7	石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	製作中
8	持送石	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	製作中
9	地覆石	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
10	石階段（正面階段1、階段2,3,5,6,7,8）	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	材料調達、荒加工済

2. 石彫刻の進捗状況②（製作中の製作物）

【No.3】大龍柱

- 階段の登り高欄手前に設置される石彫刻。
- 基本的に平成復元時の石膏原型を使用し、新たな知見のあるとぐろ巻部周辺のみ石膏原型を新規製作した。製作技術者へ引き渡し済み。
- 2024.11/19の監修時に、阿吽でタテガミの彫り方（葉研か丸刀か）が異なるが、遺物を石膏取りした吽形に合わせることを確認した。



【No.5】小龍柱

- 基壇の石高欄に設置される石彫刻。
- 平成復元時の石膏原型を基本としつつ、腹板の表現など新たな知見に基づき新規製作した。製作技術者へ引き渡し済み。
- こめかみの膨らみなど留意点がある他、2024.11/19の監修時に、吽形のタテガミや歯茎・下唇の表現の修正が必要であることを確認した。



↓ 吽形歯茎まわり
(2024.11/19撮影)



2. 石彫刻の進捗状況③ (製作中の製作物)

【No.6】 親柱上の獅子・【No.7】 石高欄

- 基壇及び階段に設置される高欄。
- 高欄（親柱・束石・地覆石・羽目石・笠石）については、平成復元時の造形を踏襲する。親柱上の獅子は、国から示された新たな知見や、彫刻WG⑩（2024.7/16開催）までの議論を踏まえて、新たに石膏原型を12体（基壇6体、登り高欄6体）を製作した。石膏原型は2025.1/29までに製作者へ引渡し済み。
- 高欄は2024.11/19に監修を実施。



握蓮(2024.11/19撮影)



逆蓮頭(2024.11/19撮影)



獅子の台座(2024.11/19撮影)



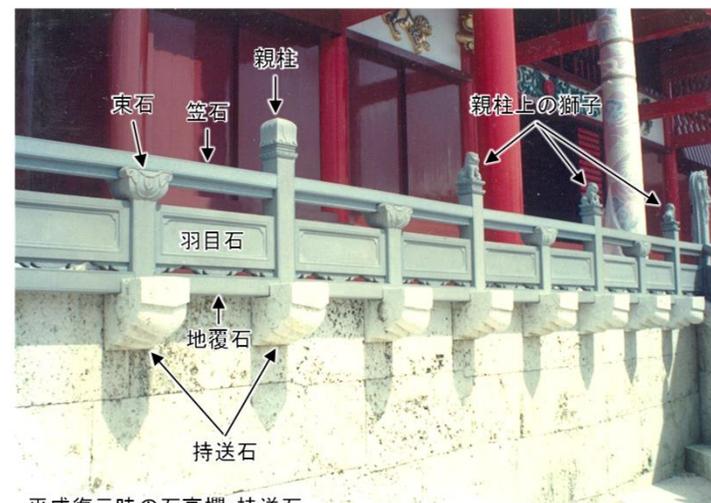
親柱上の獅子石膏原型(左2つは基壇の阿吽1:2025.1/29撮影、右2つは登高欄の阿吽A:2024.12.撮影)

【No.8】 持送石

- 基壇の石高欄に設置される石彫刻。
- 平成復元時の造形の踏襲を基本とする。
- 2024.11/19に、石高欄仮組みとともに一部確認。



高欄及び持送石(2024.11/19撮影)



平成復元時の石高欄・持送石

3. 木彫刻の進捗状況① (概要)

・ 木彫刻および造作の進捗状況は下表のとおりである。

※新たな知見の欄の下線部は彫刻WGによるもの

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
11	唐破風 妻飾 (火焰宝珠、臺股、金龍、瑞雲)	令和7年1月頃	<u>龍の手足の火焰の形や 臺股の木取り・彫り方</u>	国へ引渡し済
12	唐破風 懸魚	令和6年6月頃	<u>燕と鰭の構成 (今回は反映なし)</u>	国へ引渡し済
13	入母屋破風 懸魚	令和6年6月頃	なし (前回踏襲)	国へ引渡し済
14	向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子)	令和6年10月頃	なし (前回踏襲)	国へ引渡し済
15	向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)	令和7年1月頃	意匠に獅子も含まれていた等	国へ引渡し済
16	向拝奥の彫刻物 (金龍)	令和6年12月頃	なし (前回踏襲)	国へ引渡し済 (2025.4月に埋木)
17	向拝奥の彫刻物 (獅子)	令和7年1月頃	獅子の大きさ・姿勢	国へ引渡し済
24	2階 御差床 須弥壇 (高欄含む)	令和6年10月頃	親柱・しまこ柱の形状	国へ引渡し済
25	2階 御差床 龍柱	令和6年9月頃	<u>胴体 (腹板) のねじれ等</u>	国へ引渡し済
26	2階 御差床 羽目板	令和6年7月頃	<u>栗鼠の姿勢 (漆器事例)、 凶案配置</u>	国へ引渡し済
27	2階 天井額木	令和5年8月頃	<u>火焰宝珠の形態</u>	国へ引渡し済
28	2階 内法額木	令和6年9月頃	<u>火焰宝珠の形態、龍の足の向き</u>	国へ引渡し済
29	1階、2階 台御差床	令和7年12月頃	なし (前回踏襲)	材料乾燥中
30	国王専用階段 (おちよくい) 内部手摺	令和6年12月頃	なし (前回踏襲)	国へ引渡し済 (設置時引渡し部材有)
31	2階 外部窓手摺	令和6年12月頃	なし (前回踏襲)	国へ引渡し済

3. 木彫刻の進捗状況②（国へ引き渡し済みの製作物）

【No.12】唐破風 懸魚

- 唐破風につく懸魚。中央懸魚と降懸魚がある。平成復元時の造形を基本とする。
- 2024.6/11に国へ引き渡し済み。
- 監修過程で、燕と鰭は別部材で製作されている点が指摘された。今回復元では、平成復元時の木取りで進めたが、指摘は記録に残すこととする。



写真は中央懸魚(2024.6/11撮影)

【No.13】入母屋破風 懸魚

- 入母屋破風につく懸魚。平成復元時の造形を基本とする。
- 2024.6/11に国へ引き渡し済み。



入母屋破風懸魚(2024.6/11撮影)

【No.14】向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）

- 向拝を飾る透欄間（正面3枚、南殿側1枚、北殿側1枚）で、牡丹・唐草・獅子の透かし彫りが両面に施されている。
- 平成復元時の造形を踏襲することを基本とし、令和の復元の斗拱等の形にあわせて下絵を調整した。また、彫刻にあたっては、鎌倉古写真を参考にしながら進めた。
- 2024.11/8に国へ引き渡し済み。



透欄間 引き渡し時の様子(いずれも2024.11/8撮影)

3. 木彫刻の進捗状況③ (国へ引き渡し済みの製作物)

【No.11】 唐破風妻飾

- 唐破風の妻面に設置される彫刻物で、火焰宝珠と蕃股、阿吽の龍、瑞雲が配置されている。
- 鎌倉古写真の分析により、蕃股は、中心の火焰宝珠や瑞雲が貼り付けられる面まで含めた木取りとなっていたことがわかり、新たな知見を反映させた木取りとした。平成復元時の下絵をベースに、鎌倉古写真等を参考に新たに下絵を起こした。彫刻にあたっては、鎌倉古写真や、火焰宝珠の拓本を参考にしながら進めた。
- 2025.1/24に国へ引き渡し済み。

【No.15】 向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)

- 向拝の彫刻物で、平成復元時は牡丹唐草の彫刻だったが、新たな知見として、牡丹の数は3つで阿吽1対の獅子も意匠に含まれていたことが示された。
- 古写真の分析を踏まえて新たな下絵を製作。FRP原型や試し彫りの監修等を経て、山口県で製作。彫刻にあたっては、透欄間の鎌倉古写真を参考にしながら進めた。
- 2025.1/24に国へ引き渡し済み。

【No.17】 向拝奥の彫刻物 (獅子)

- 向拝の彫刻物で、阿吽1対の獅子。新たな知見として、獅子の大きさや姿勢が異なることが示された。
- 古写真の分析や、伝世品である円覚寺欄間羽目などの事例調査を踏まえて、新たな下絵を製作。原型や一部試し彫りの監修等を経て製作。彫刻にあたっては、円覚寺の獅子浮彫や、透欄間の鎌倉古写真を参考にしながら進めた。
- 2025.1/24に国へ引き渡し済み。



(2025.1/24撮影)

唐破風妻飾

向拝奥の彫刻物(獅子)

向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草)

向拝奥の彫刻物(獅子)

3. 木彫刻の進捗状況④ (国へ引き渡し済みの製作物)

【No.24】2階 御差床 須弥壇

- 2階 御差床の須弥壇。
- 平成時の造形を基本とするが、国の彫刻・彩色作業チーム等を経て指示があった図面どおりに製作した。
- 須弥壇部と高欄部に分けられるが、須弥壇部（2024.8/29）および高欄部（2024.9/30）ともに、国に引き渡し済み。



平成復元時の写真(2階 御差床) ((一財)沖縄美ら島財団提供)

【No.25】2階 御差床 龍柱

- 須弥壇高欄の一部となる阿吡1対の龍柱。
- 平成復元時の石膏原型を参考にしつつ、小龍柱と同じく、胴体のねじれを反映させた石膏原型を製作した。
- 2024.9/17に国へ引き渡し済み。
- 監修過程で、古文書の分析により、とぐろ巻が無かった可能性が示唆されたが、令和の復元として詳細な造形とするには根拠資料等が不足していることから、将来的な検討課題として記録することを確認した。



【No.26】2階 御差床 羽目板

- 須弥壇の羽目板（正面6枚、両側面3枚ずつ、計12枚）で、葡萄栗鼠文様が施されている。
- 平成復元を参考にしつつも、栗鼠の姿勢等について、琉球漆器に根拠を求める形で新たに下絵を製作した。
- 6パターンの栗鼠の組み合わせをつくり、パターンの配置には対応関係を持たせた。
- 2024.7/22に国へ引き渡し済み。



羽目板(2024.7/19撮影)

3. 木彫刻の進捗状況⑤（国へ引き渡し済みの製作物）

【No.27】 天井額木

- 2階 御差床の柱をつなぐ部材で、裏表両面に、火焰宝珠と阿吽の龍、瑞雲の彫刻が施されている。
- 2023.8/7に国へ引き渡し済み。



天井額木引き渡しとマスコミ公開の様子(2023.8/7撮影)

【No.28】 内法額木

- 2階 御差床の長押の上に設置される彫刻物で、火焰宝珠、阿吽の龍、瑞雲が3連に並んでいる。
- 平成復元時の下絵をベースに、龍の腹板の表現や、火焰宝珠の形態、龍の後脚の形などを修正した下絵を新規製作した。
- 2024.9/17に国へ引き渡し済み。



内法額木(2024.9/5撮影)

【No.16】 向拝奥の彫刻物（金龍）

- 向拝の彫刻物で、柱に巻き付く阿吽1対の龍。
- 石膏原型について、吽形は平成復元時の原型を修復して活用し、阿形は吽形及び平成時の写真等を参考に新規製作した。
- 2024.12/11-12に現場で仮合わせを実施した。
- 2024.12/20にマスコミ公開、2025.1/14に国へ引き渡し済み。



金龍 マスコミ公開の様子(2024.12/20撮影)